憲法「九条の会」アピールに賛同する　第10号2013年11月発行

愛知・大学人ネットワークNews

（巻頭の言葉）

戦争体験は改憲を許さない

福田静夫（日本福祉大学名誉教授）

私は、満州事変の翌年に生まれ、日本が本格的な中国侵略戦争を始めた翌年に小学校に入学しました。そして太平洋戦争下で国民学校高等科に進んだ数え年十三歳の時、すぐに学徒動員によって激しい空襲下の名古屋の軍需工場に動員されました。連夜の夜間の焼夷弾攻撃で逃げ惑い、照明弾で照らされた行く手に爆弾が投下された夜が明けると、眼下に広がった焼け野原。その光景は、いまでも眼に焼き付いています。ようやく岐阜の山村に疎開した敗戦の年、転校先の学校での開墾と松根掘りの勤労奉仕に慣れる間もなく、担任から、で少年航空兵を強制志願させられて合格しました。数え年で十四歳、早生まれだったので満十三歳の夏。入隊待ちの間に戦災のために家財は全焼、父親が失職したところで，敗戦を迎えました。名古屋の小学校時代の同級生には、学徒動員や沖縄戦のなかでの犠牲者も出ていましたし、小学校も爆撃をうけていました。この意味では私も、文字通りにアジア／太平洋戦争の申し子世代の一人、戦争下では義務教育もまともに与えられずに無償の戦争資源として消費され、戦後には飢餓と貧困のなかに放り出されましたが、辛うじて戦後の平和憲法と民主主義的な教育に希望を与えられたことで、遅ればせながらも大学教育を受けることができましたし、社会人としてのこれまでは、戦後の福祉の教育やその制度的な前進と充実のために微力を尽くすことができました。

思い返せば、私の初等・中等教育時の戦争体験には、工場動員をはじめとして、東条内閣の商工大臣であった岸信介の名が深く刻まれています。その彼は、戦後は、アメリカに忠誠を誓うことで戦争責任の断罪を免れ、ついには総理大臣として日米安保条約を結び、アメリカへの従属下でアメリカの世界覇権を支えることで、日本の大国化を図る路線を布きました。「売国奴」というレッテルを貼られなくもないその祖父を誇りとするのが、いまの安倍晋三首相です。

国民の未来を国際的な投機資本に丸投げした「アベノミクス」で虚構の「好景気」を演出しながら、放射能汚染水垂れ流しの福島原発を「コントロール」されているといって国際社会を欺いての「オリンピック」招致。いかにも小選挙区制というこれまた欺瞞的な選挙制度によってつくりだした「多数派」の暴走車に乗ったこの「三代目」らしいやり口です。「TPP」問題ではアメリカのエイジェントを務めながら、96条改憲の裏技、「集団的自衛権」や「機密保護法」による改憲の既成事実作りの荒技、「経済成長戦略」のためという口実での「復興特別税」の前倒し廃止や「輸出三原則」の放棄などの大企業・軍事産業サービス、その反面で「生活保護基準」引き下げや「年金」切り下

げ、「介護保険」からの要支援はずし、高校授業料の無償化の見直しなど、露骨な社会福祉破壊政策のオンパレード。この祖父にしてこの孫ありというべきなのでしょうが、これほどまでに戦後の憲法体制を根底から破壊しようとする動きが表面化したことは、戦後政治の68年間でもかつて経験したことのなかったものではないでしょうか？

安倍首相が、彼の祖父と同じような体験を私たちの孫の世代に繰り返させることをけっして許してはなりません。かつての戦争末期、敗色濃厚ななかでアメリカへの戦意高揚のために作られた戦時歌謡のなかに、「♪　親子三代念願かけて、剥いで潰すぞ、鬼の面々々々　エイ　エイ　エイ」（「神風節」）という一節がありました。現在、孫を持つ私の身になってみると、どうもこれは安倍首相に向けて作られたものでもあったような気がしてきます。それが「ひが事」だというのなら、彼の祖父の戦中政治の教育の後遺症のせいなのですから、悪しからず。

憲法「九条の会」アピールに賛同する愛知・大学人ネットワークによる「緊急アピール『憲法破壊』に反対する」は、２５４名の大学人の署名が集まりました。

賛同署名集約活動の経過報告

安倍首相は、改憲問題になみなみならぬ意欲を持ち、就任直後の国会答弁で、「まずは多くの党派の主張している96条の改正に取り組む」と公言し、日本維新の会、みんなの党との連携を示唆しました。今回の参議院選挙においても、自民党は、その公約において「さあ、時代の求める憲法を」という項目をもうけ、改憲にとりくむ姿勢を明確にしています。

2004年12月以来、愛知県下の大学の九条の会と協力し、憲法九条を守る運動を行ってきた私たちは、この安倍政権の改憲動向に対抗し、「緊急アピール　『憲法破壊』に反対する」を、今年の5月16日に、発表しました。今日までに、愛知県を中心とした29大学から、254名の賛同署名が集まっています。

さらに、6月22日には、講演会「東アジアの平和と日本国憲法第九条」を行いました。
愛知大学の加々美光行先生は、「東アジアの平和をどうつくるのか一米国の覇権と日中韓新政権のゆくえ」と題して、講演され、今回の米中首脳会談についてもくわしく分析されつつ憲法九条の重要性について指摘されました。名古屋大学の愛敬浩二先生は、「現代の改憲動向と私たちの課題」と題した講演をされ、現代改憲論の特徴の指摘や、自民党の「改正草案」の分析をされ、9条擁護の裾野をひろげることを呼びかけられました。講演後、活発な質疑討論が行われています。この講演会の参加者数は65名です。

ここに、上記の「緊急アピール」と、その賛同者名を公表するとともに、現在の情勢のもとで、憲法問題の重要性を改めて強く訴えるものです。

2013年7月12日　　憲法「九条の会」アピールに賛同する愛知・大学人ネットワーク事務局